

大分大山町農協 自己改革取組宣言

「これまでも、これからも、農協・組合員・地域の皆さまのお役にたつため
大分大山町農協は総合事業を積極的に展開してまいります」

- 農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化に取り組めます。
- 協同組合の原点に立ち組合員の皆さんと常に密着した話し合いを深めます。
- 「農協総合事業」の強みを活かし、農家組合員・地域にとってなくてはならない組織であり自主、自立、自由を守り続けます。

農協は組合員の一人ひとりが力を合わせ、みんなの願いをかなえていく組織です。

- ・農協は農業者（正組合員）（准組合員）と共に地域農業を支える組織が協同組合です。組合員の営農と生活、生命と暮らしを守るため、様々な事業を総合的に展開しています。
- ・農業者の所得向上や地域農業の振興と活性化を目的に、農産物の販売や信用事業、共済事業などの様々な事業を総合的に結び付け、地域づくりに取り組んでいます。
- ・地域農業・農村の振興発展のためには、新しい技術や資金、人材が必要です。私たちは従来の農協事業（信用、共済、購買、販売）を内需事業としてここからは利益を得ず、今までの事業とは異なる外需事業（食品加工、菌茸類栽培、農産品直販、農家レストラン、外商、里山公園等）で外貨を得て、農家組合員の所得向上と生活基盤の安定へ貢献いたします。
- ①「農業の六次産業化」の言葉と理論、発祥の地が大山です。元祖にふさわしい収益率の高い農業の六次産業化を更に前進します。
- ②都市と農村の多面的交流の場、いのち・よみがえる「五馬媛の里」（現在29.0ha）
農業者のテーマパークを更に進め、百花繚乱咲きほこる桃源郷の世界「心の遊園地」をつくります。
- ③日田漁業協同組合とは垣根を越え、熊本県阿蘇農協とは県境を越えて包括的経済連携協定を締結しています。この事業実績を確実に伸ばしていきます。
- ④地域集落文産（文化と産業）施設事業の推進
各地域集落にビニールハウス、食品加工工房、菌茸類栽培施設等を農協で建設します。そこは生産の現場でありコミュニティー文化育成の場でもあります。高齢者の方々を農協契約職員として雇用し給与を支払いしていきます。
- ⑤担い手の育成と遊休地対策
後継者の会や新規就農者の育成を継続します。
また、遊休地の斡旋等により農地の荒廃化防止に取り組めます。
- ⑥オーガニックランドの更なる挑戦
40年以上、きのこ栽培堆肥（オネスト250）を年間1,500トン製造し、農地に散布施肥して土づくりを行ってきました。「安心」「安全」「健康」そして「美味しさ」にこだわり、大山オーガニック農法の推進をします。
- ・総合事業を通じて、地域の農業や暮らしを守り、協同の精神を子や孫の次代につなげるための活動に取り組んでいきます。